

いばらき

市議会

No.235

令和2年(2020年)1月

だより



餅つきをする児童（水尾小学校グラウンド）

目次

新年号

年頭のごあいさつ	2
各会派新年の抱負	2
市議会のうごき	4
議会広報委員会が追手門学院大学生と グループワークを実施	5

あけましておめでとうございます。
本号では、各会派の新年の抱負を中心に掲載し
ております。

編集 / 議会広報委員会 発行 / 茨木市議会
電話 (072) 620-1670 FAX (072) 623-7591
<http://www.city.ibaraki.osaka.jp/shisei/gikai/>



スマートフォンのQR
コードリーダーで読み
取ることができます。

年頭のごあいさつ



市議会議長
下野 巖



市議会副議長
塚 理



あけましておめでとうございます。
市民の皆様には、令和2年の新春をお健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、台風19号等が日本各地に甚大な被害をもたらし、自然災害の恐ろしさを再認識させられる年でした。一方で、ラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表が史上初のベスト8入りを果たすなど、日本人々へ勇気を与えてくれました。

全国的に、老朽化したインフラの再整備が進められている中、本市においても、次世代にどのようなまちを残すのかが問われる時期が来ております。そのような中、昨年、長きにわたり、市民に愛されてきた元市民会館が解体されましたが、その跡地活用については、さまざまなアイデアが出され、「次なる茨木」へ向けた新たなまちづくりが進められております。

また、安威川ダムについても、周辺整備基本構想が策定され、官民連携で整備事業が進められることにより、本市山間部の魅力が高まっていくものと考えております。

市議会といたしましては、28万市民の代表機関として、皆様の声を行政運営に反映し、誰もが住み続けたいと思えるまちの実現に向け、今後も全力で取り組んでまいります。

本年も、皆様にとって幸多き年になりますよう心から祈念いたしまして、年頭のごあいさついたします。

各会派 新年の抱負

大阪維新の会



塚



理 大野 幾子



岩本 守



萩原 佳



長谷川 浩

新年あけましておめでとうございます。
新しい年、皆様のご要望に、より一層お応えできるようさらに精励してまいります。本年もご厚誼のほどお願い申し上げます。

昨年4月の統一地方選挙では、大阪府知事選挙、大阪市長選挙、大阪府議会議員選挙におきまして、私たち大阪維新の会公認の候補者が圧倒的な支持をいただき、当選を果たしました。本市におきましても、市民の皆さまの期待にこたえるべく、市政の発展に取り組んでまいります。

さて、一昨年、震災や台風等の自然災害が本市を襲いました。そして昨年

は関東を中心に自然災害による甚大な被害が発生しました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

このように、豪雨や地震などの自然災害が多発する「災害大国日本」という現実に対して、自治体としての危機管理の重要性が浮き彫りになっていきます。本市としても、安心・安全な暮らしを守るうえで、積極的にさまざまな施策に取り組まなければなりません。

また、まちづくりにおいては、JR茨木駅、阪急茨木市駅の周辺整備、中心市街地における交通渋滞、新しい芸術文化施設の建設など、スピード感を持って取り組まなければなりません。他にも、追手門学院総持寺キャンパス開学によって環境が一変したJR総持寺駅周辺のまちづくり、安威川ダム周辺地域の整備、彩都東部地域のまちづくりなど、さまざまな課題に対して、多くの具体的な提案をしてまいります。

少子高齢化が進む現実のもと、茨木市の財政も歳出の約半分を占める民生費（子ども、高齢者、障がい者に対する福祉サービス経費など）が年々増加しています。生活に密着する民生費や次代を担う子どもたちの教育費などは減らすことはできません。教育という観点から私たちが推進してきました全

員喫食の中学校給食も今年は具体的な施策が進められます。新しい施策を実行するには、費用がかかるのは当然ですが、限られた財源の中で、税金の無駄遣いを見逃すことなく、本市にとって本当に必要なことは何なのかをしっかりと見極め、チェックしてまいります。

これからも、住んでよかった、住み続けたいまち、茨木市をめざして、精力的に活動してまいります。皆様のより一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、今年一年が皆様にとって、素晴らしい年となりますことをご祈念申し上げます。

自由民主党・絆



下野 巖



福丸 孝之



上田 嘉夫



上田 光夫

新年あけましておめでとうございます。昨年10月22日には天皇陛下の御即位を広く披露するための「即位の礼」が行われ、本年、令和になって最初の新年を迎えました。文字通り新しい時代の幕開けです。令和の御代がスタートしたことを寿ぎながらも、茨木市から地域の繁栄と平和の実現に貢献して

いく所存でございます。

さて、我が会派は本年4月に予定されている茨木市長選挙とあわせて、令和3年1月に予定されている市議会議員選挙を同時に行うダブル選挙を実現すべく取り組んでまいりました。平成24年の市長選挙実施の際、そして前回の平成28年の市長選挙の際も、議論を進めるべく投げかけてきたところです。また、具体的には、議会改革の検討項目として、議会に提案してきたところです。

このように、我が会派が8年越しでダブル選挙実現を目指す理由は、大きく二つあります。一つは、経費の削減です。二つの選挙を一つにまとめることで、事務経費が約4500万円削減されると言われています。もう一つは、投票率の向上です。過去3回の茨木市長選挙の投票率は、無投票（平成20年、36.45%（24年）、34.12%（28年））であり、また過去3回の市議会議員選挙の投票率は、45.23%（平成21年）、41.79%（25年）、39.98%（29年）となっています。この結果を見ると、市長選挙の投票率が市議選より約5ポイント低いことが分かります。同日選挙を実施することで、市長選挙の投票率向上が期待されるのです。

また、全国においても市長選と市議選を同日にする取り組みが実施されていると聞いています。茨木市でも本格的に検討を始める必要があると考えます。

その他、中心市街地の活性化、医療、

福祉、介護の効果的な取り組み、中学校給食の実現等、10年後、20年後を視野に入れた持続可能な「次なる茨木」を実現すべく活動してまいります。

今年一年が皆様にとって健やかな一年となりますことをご祈念申し上げます。

日本共産党



朝田 充



中野 剛



大谷 さやか

新年あけましておめでとうございます。

昨年の統一地方選挙と参議院選挙では日本共産党の議席の前進はかき進められなかったが、市民と野党の共闘が大きな前進しました。日本共産党は、引き続き国政でも地方政治でも住民の声を無視した暴走政治とは正面から対決し、具体的対案を示し、共闘・共同をつくりあげていくと同時に、選挙での共闘・共同勢力と日本共産党が共に前進を勝ち取る知恵と力をつけていく決意です。

また昨年は、東日本を中心に広域的な豪雨災害が発生しました。特に台風19号では、71河川で140か所の堤防

が決壊し、これまでの「ダム優先」の治水対策を「耐越水堤防」の採用など「堤防の強化優先」に転換させる必要があることが明らかになったのではないのでしょうか。日本共産党は国・府・市において河川改修予算を増額して、こうした河川流域全体の総合的な治水対策を主張するとともに、被災者支援としても重要な「消費税の5%への減税」「国保料・介護保険料など社会保障負担の軽減」、「一部損壊住宅復旧支援施策の拡充」などの実現を訴えています。「次なる茨木」は大型プロジェクト偏重より「安心・安全」のまちづくり優先で活気のある茨木へ。今年も全力を挙げて頑張ります。どうかよろしくお願い申し上げます。

いばらき未来の会



安孫子 浩子



荒井 通憲



稲葉 通宣

皆様2020年を新しいお気持ちで迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年はラグビーW杯でベスト8、野球のプレミア12での優勝、ボクシングのWBSでは井上尚弥選手が日本人

として初めて制するなど日本勢の躍進が続ぎ、東京オリンピックを迎えるにあたり大いに勇気をいただきました。

また、茨木市では懸案であった旧市民会館の解体工事が行われ、跡地利用計画や新たな市民会館のコンセプトが決定するなど、「次なる茨木」に向かって大きく前進しています。

その一方で、大阪北部地震や台風の教訓を忘れることなく、被災者の支援や減災・防災への取り組み、災害に強いまちづくりをさらに推進してまいります。

私たち「いばらき未来の会」は、待機児童解消に向けて「駅前送迎保育

公明党



松本 泰典



青木 順子



大村 卓司



坂口 康博



篠原 一代



河本 光宏

新年あけましておめでとございませう。旧年中は公明党議員団に対し、温かいご支援を賜り誠に有り難うござい

ステーションの創設、「まちづくり会社との連携による駅前整備の早期推進」、「新たな地域内交通（コミュニティバス等）の実現」、「政務活動費の改革（実費支給等）の実施」に力を入れて活動していく所存です。また、茨木市が進める「次なる茨木」の各施策をしっかりとチエックし、市民の皆様が安心して住み続けたいと思える茨木のまちづくりには、引き続き取り組んでまいりますので、より一層のご指導を賜りますようお願いいたします。

結びになりますが、本年が皆様にとって素晴らしい1年になりますように、心より祈念いたしております。

昨年は新天皇の即位による令和の年が幕開けし、ラグビー日本代表を初めとする各界の皆様の大活躍等に日本中が歓喜した年でありました。しかし、一方で、超大型台風等による大きな風水害が相次ぎ、全国各地に深い爪痕を残しました。本市においても、一昨年の大阪府北部地震と台風21号による被害から、今なお、元の生活に戻れていない方々がおられます。改めて、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

近年、頻発する豪雨災害など、あらゆる災害リスクを想定して防災・減災対策を講じていく必要があります。公明党議員団はこれまで災害に強いまちづくりをめざし、避難所となる学校施設等の耐震化、避難設備や備蓄品の充実等、推進を図ってまいりましたが、避難所となる体育館の暑さ対策も喫緊の課題と捉え、エアコン設置を推進してまいります。また、治水対策としては早期の安威川ダム完成を目指すとともに、堤防の強化や河川の浚渫などの河川整備や管理等、府と連携しながら強化を図ってまいります。

さて、北部においては、民間活力を生かした安威川ダムの周辺整備が本格的に動いてまいりますが、北部全体の魅力発信基地として推進していくとともに、山と市街地を繋ぐ緑の形成にも取り組んでまいります。

さらに、市民の皆様から望み久しい市民会館跡地エリアの整備についても、本年1月に受託候補者が選定され、いよいよ施設整備が始動します。市民会館跡地エリアを中心として、JRと阪急の両駅にまたがる人の回遊や交流、活動が生まれるようなまちづくりを推進してまいります。

また、昨年10月から公明党が長年推進してきた幼児教育の無償化（特に3

市議会のうごき

10月

- 3日 議会基本条例検証会議
- 10日～11日 議会運営委員会行政視察（福島県会津若松市、福島市）
- 15日 議会広報委員会
- 16日～17日 市民会館跡地等整備対策特別委員会行政視察（岐阜県岐阜市、愛知県豊橋市）
- 23日～24日 市街地整備対策特別委員会行政視察（福井県福井市、石川県金沢市）
- 24日～25日 北部地域整備対策特別委員会行政視察（福岡県那珂川市）
- 29日 幹事長会
- 31日 議会広報委員会（P 5 参照）

11月

- 7日 議会広報委員会（P 5 参照）
- 15日 議会基本条例検証会議
- 26日 追手門学院大学生との意見交換会
- 29日 幹事長会
議会運営委員会

歳から5歳の全児童が対象）が始まりました。子どもの貧困や児童虐待問題等が浮き彫りになる中、未来を担う子どもたちへの質の高い幼児教育の提供や、社会全体で子どもを育てていく仕組みづくりに今後も全力で取り組んでまいります。

さて、茨木市議会においては、現在、平成25年施行の「茨木市議会基本条例」の検証が行われています。また、昨年9月議会において、市民の皆様信頼される議員のあり方を明確にするため、議員発の「茨木市議会議員政治倫理条例」を制定いたしました。公明党は更なる議会改革をめざし、政策立案など議会の機能強化を図るとともに、これまで以上に市民の皆様代表としての責務を果たしてまいります。

今夏には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、「オリンピック聖火リレー」が本市にもやっています。平和や希望の象徴とされる聖火の炎にワクワクする気持ちのよう、市民の皆様と共に本市のポテンシャルを掘り起こし、ワクワクでき

る魅力ある茨木のまちづくりに全力を
尽くしてまいります。本年も何卒よろ
しくお願い申し上げます。

会派に所属しない議員



睦子 あけましておめで
とございます。

桂 本年は、早々に市
民会館跡地エリアの
プレゼンテーションが行われ、未来へ
続く茨木の姿が見えてきます。

「次なる茨木」は、一人ひとりの声
と行動から始まります。すべての市民
が、年齢や性別、人種に関わらず、尊
厳を持ち、安心して暮らせるために、
地域を歩き、議会のみんなと議論を重
ね、今年も行政のチェックと議会改革、
政策提案を進めてまいります。



美智子 新春のお慶びを申
し上げます。

小林 「一人ひとりの声
論を尽くし、多様な意見から最善の政
策選択をすること」が28人の議員で構
成する茨木市議会の役割です。市民会
館跡地エリア整備の事業者選定や、防
災関連計画見直しなど、「次なる茨木」
を作るための一歩を踏み出す重要な年
だからこそ、議会の役割を改めて胸に
刻み、安心して充実した暮らしが営め
る茨木となるために努力を続けます。



勝利 新年あけましてお
めでとございます。

米川 昨年は中心市街地
活性化、駅前公園
と噴水のリノベーション、公共空間活
用、公（官）民連携の事業推進に重点
を置いて調査や議会質問をしました。
茨木を変化と期待感のあるまちにすべ
く、本年も政策提案してまいります。



登 登 登 登 登
新しい年を迎えま
した。本市には政策
課題が山積です。市
民病院、大学病院

がなため24時間対応の総合病院が必
要と長年取り組み、現在、委員会医
師会と多岐にわたる意見交換をし、推
し進めております。また、JR茨木駅
から阪急茨木市駅間のまちの活性化に
は、建築制限を見直すことが洗練され
たまちづくりの第一歩であると考え
日々取り組んでいるところです。
本年も皆様のご多幸をお祈りいたし
ます。

おしらせ

12月定例会の
内容については、
令和2年2月1日
発行予定の市議
会だより第236
号で掲載を予定
しております。

議会広報委員会が追手門学院大学生とグループワークを実施

議会広報委員会では、令和元年10月31日と11
月7日に、追手門学院大学茨木総持寺キャンパスに
おいて、追手門学院大学地域創造学部2年生の皆さ
ん（14名）とグループワークを行いました。

2回のグループワークでは、活発に意見が交わさ
れ、若者に議会への関心を持ってもらうための情報発
信手法などについて、様々なアイデアやヒントをいた
だきました。これらを踏まえながら、これからの議会
広報について、議論を深めていきたいと思ひます。



●学生皆さんの感想（抜粋）

- 市議会議員の皆さんと議論することはなかな
かない機会であるため不安でしたが、皆
さん優しく、今まで遠い存在であった議会
というものを身近に感じる事ができたと思
ひます。
- 大学生目線での意見を伝えることができ、
議員の方にもなるほどと言ってもらえる場
面が多く、議論が楽しかったです。
- 議員の皆さんと間近で議論しあえる場所を
ふやすことで、地域に魅力を感じ、協力し
てくれる若者もふえるのではと感じました。

